

日本銀行の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

役員報酬については、日本銀行法第31条に基づき、「特別職の職員の給与に関する法律」(昭和二十四年法律第二百五十二号)の適用を受ける国家公務員(以下「特別職国家公務員」という。)の給与その他の事情を勘案して定めるととされている。

② 平成26年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む)

役員報酬については、日本銀行法第31条に基づき、特別職国家公務員の給与その他の事情を勘案して定めるとされており、業績反映は行っていない。

③ 役員報酬基準の内容及び平成26年度における改定内容

総裁

日本銀行の役員の報酬(役員給与)は、役員俸給と役員手当からなる。役員俸給は、毎月定額を支給し、役員手当は、6月および12月に支給することとしている。

平成26年度は、特別職国家公務員の給与改定状況等を勘案し、役員手当の引き上げにより、年収を前年度(役員給与の減額支給措置※勘案前)比1.3%引き上げることとした。改訂後の27年3月末現在の役職別の役員俸給、役員手当の支給額は、次表のとおりである。

	役員俸給 (月額)	役員手当 (半期当たり)
総裁	2,016千円	5,238千円
副総裁	1,595千円	4,127千円
審議委員	1,528千円	3,967千円
監事	883千円	2,469千円
理事	1,201千円	3,379千円

※東日本大震災からの復興に協力する趣旨から、平成24年度および25年度限りの臨時特例措置として、役員給与の減額支給(年収の減額率:総裁△30%、副総裁及び審議委員△20%、監事及び理事△10%)を行った。

副総裁

同上

審議委員

同上

監事

同上

監事(非常勤)

該当者なし

理事

日本銀行の役員の報酬(役員給与)は、役員俸給と役員手当からなる。役員俸給は、毎月定額を支給し、役員手当は、6月および12月に支給することとしている。

平成26年度は、特別職国家公務員の給与改定状況等を勘案し、役員手当の引き上げにより、年収を前年度(役員給与の減額支給措置※勘案前)比1.3%引き上げることとした。改訂後の27年3月末現在の役職別の役員俸給、役員手当の支給額は、次表のとおりである。

	役員俸給 (月額)	役員手当 (半期当たり)
総裁	2,016千円	5,238千円
副総裁	1,595千円	4,127千円
審議委員	1,528千円	3,967千円
監事	883千円	2,469千円
理事	1,201千円	3,379千円

※東日本大震災からの復興に協力する趣旨から、平成24年度および25年度限りの臨時特例措置として、役員給与の減額支給(年収の減額率:総裁△30%、副総裁及び審議委員△20%、監事及び理事△10%)を行った。

理事(非常勤)

該当者なし

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成26年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	千円	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
総裁	千円 34,668	千円 24,192	千円 10,476	千円 0 (-)			*
副総裁 A	千円 27,394	千円 19,140	千円 8,254	千円 0 (-)			※
副総裁 B	千円 27,394	千円 19,140	千円 8,254	千円 0 (-)			
審議 委員A	千円 27,957	千円 18,040	千円 9,917	千円 0 (-)		27年3月25日	
審議 委員B	千円 26,270	千円 18,336	千円 7,934	千円 0 (-)			
審議 委員C	千円 26,270	千円 18,336	千円 7,934	千円 0 (-)			
審議 委員D	千円 26,270	千円 18,336	千円 7,934	千円 0 (-)			
審議 委員E	千円 26,270	千円 18,336	千円 7,934	千円 0 (-)			
審議 委員F	千円 26,270	千円 18,336	千円 7,934	千円 0 (-)			
審議 委員G	千円 295	千円 295	千円 0	千円 0 (-)	27年3月26日		*
監事A	千円 15,534	千円 10,596	千円 4,938	千円 0 (-)			*
監事B	千円 15,534	千円 10,596	千円 4,938	千円 0 (-)			※
監事C	千円 15,534	千円 10,596	千円 4,938	千円 0 (-)			※
理事A	千円 4,213	千円 1,511	千円 2,702	千円 0 (-)		26年5月8日	※
理事B	千円 21,170	千円 14,412	千円 6,758	千円 0 (-)			※
理事C	千円 9,902	千円 5,578	千円 4,324	千円 0 (-)		26年8月20日	*
理事D	千円 21,170	千円 14,412	千円 6,758	千円 0 (-)			※
理事E	千円 21,170	千円 14,412	千円 6,758	千円 0 (-)			※
理事F	千円 21,170	千円 14,412	千円 6,758	千円 0 (-)			※
理事G	千円 17,497	千円 12,901	千円 4,596	千円 0 (-)	26年5月9日		※
理事H	千円 11,762	千円 8,833	千円 2,929	千円 0 (-)	26年8月21日		*

注: 本表の「前職」欄の「*」は、退職公務員、「※」は、独立行政法人等を退職した者であることを示す。

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

総裁

日本銀行法第31条において、日本銀行は、役員の給与等の支給の基準(以下「役員の給与等支給基準」という。)を、社会一般の情勢に適合したものとなるよう定め、これを財務大臣に届け出るとともに、公表するよう規定されている。また、「役員の給与等支給基準」は、特別職国家公務員の給与及び退職手当その他の事情を勘案して定められなければならないとされている。

「役員の給与等支給基準」では、「日本銀行の適切な政策運営及び業務サービスの維持・向上を図るために必要な人材を確保する上で十分競争力のあるものとし、そうした人材の民間企業等における処遇の実情を勘案する」とともに、「総裁の給与については、特別職国家公務員の最高給与を上回らないようにこれを定め、総裁以外の役員については、各役職の職責に応じ、総裁との均衡を考慮すること等を基本的な考え方としている。

平成26年度の役員の年収水準は、次表のとおりとなっているが、これは上記の法令・基準の定めに従い、決定したものである。

総裁	3,467万円
副総裁	2,739万円
審議委員	2,627万円
監事	1,553万円
理事	2,117万円

副総裁

同上

審議委員

同上

監事

同上

監事(非常勤)

該当者なし

理事

日本銀行法第31条において、日本銀行は、「役員の給与等支給基準」を、社会一般の情勢に適合したものとなるよう定め、これを財務大臣に届け出るとともに、公表するよう規定されている。また、「役員の給与等支給基準」は、特別職国家公務員の給与及び退職手当その他の事情を勘案して定められなければならないとされている。

「役員の給与等支給基準」では、「日本銀行の適切な政策運営及び業務サービスの維持・向上を図るために必要な人材を確保する上で十分競争力のあるものとし、そうした人材の民間企業等における処遇の実情を勘案する」とともに、「総裁の給与については、特別職国家公務員の最高給与を上回らないようにこれを定め、総裁以外の役員については、各役職の職責に応じ、総裁との均衡を考慮すること等を基本的な考え方としている。

平成26年度の役員の年収水準は、次表のとおりとなっているが、これは上記の法令・基準の定めに従い、決定したものである。

総裁	3,467万円
副総裁	2,739万円
審議委員	2,627万円
監事	1,553万円
理事	2,117万円

理事(非常勤)

該当者なし

【主務大臣の検証結果】

上記(「法人の検証結果」)のとおり、日本銀行は、日本銀行法および「役員の給与等支給基準」に基づき、役員の報酬水準が適正なものとなるよう取り組んでいる。

4 役員の退職手当の支給状況(平成26年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
総裁	千円 該当者なし	年	月			
副総裁	千円 該当者なし	年	月			
審議委員	千円 15,953	年 5	月 0	27年3月25日	—	
監事	千円 該当者なし	年	月			
理事A	千円 9,945	年 4	月 0	26年5月8日	1.5	※
理事B	千円 9,404	年 4	月 0	26年8月20日	1.5	*

注:本表の「前職」欄の「*」は、退職公務員、「※」は、独立行政法人等を退職した者であることを示す。

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
審議委員	「役員の給与等支給基準」に基づき支給(業績評価対象外)。
理事A	「役員の給与等支給基準」に基づき支給。業績勘案率(1.5)については、同基準等の定めに従い、業績評価委員会が決定。
理事B	「役員の給与等支給基準」に基づき支給。業績勘案率(1.5)については、同基準等の定めに従い、業績評価委員会が決定。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

役員報酬については、日本銀行法第31条に基づき、特別職国家公務員の給与その他の事情を勘案して定めることとされており、業績反映は行っていない。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

日本銀行法第31条に基づき、社会一般の情勢に適合したものとなるよう「日本銀行における職員の給与等の支給の基準」(以下「職員給与の支給基準」という。)を定め、財務大臣に届け出るとともに、公表している。「職員給与の支給基準」では、職員給与については、「適切な政策運営及び業務サービスの維持・向上を図るために必要な人材を確保する上で十分競争力のあるものとし、そうした人材の、主要民間金融機関のほか主要民間企業等における処遇の実情をも勘案」して決定することとしている。

こうした枠組みのもと、毎年の職員の給与改訂に当たっては、主要民間金融機関・主要民間企業等の年収動向を調査し、これらの平均的な給与改訂率を主たる判断材料として給与改訂を行っている。調査先(比較対象先)は、採用等の人材確保の面で競合する業種の主要先であって、全国規模で業務を展開している先のうち、調査への継続的な協力の得られる先としている。

また、人件費については、業務及び財産の公共性にかんがみ、その総額を含めて適正かつ効率的なものとなるよう配慮している。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

(業績給の仕組み及び導入実績を含む)

「職員給与の支給基準」に基づき、職員の給与は、能力、職責及び勤務成績等に応じたものとしている。

○定例給与

管理職は、業績に顕れた能力に基づき、年1回、年俸を査定。年俸の12分の1の額を定例給与としている。
非管理職は、年1回、業務遂行上必要な能力の伸長度合いの評価を行い、これに基づき支給している。

○賞与(査定支給部分)

半期毎(管理職については通年)の勤務成績により支給する。

③ 給与制度の内容及び平成26年度における主な改定内容

「職員給与の支給基準」に基づき、定例給与(俸給、資格給及び扶養手当)、諸手当(職務手当、時間外勤務手当、夜間勤務手当、海外勤務手当、宿直手当、住居手当、単身赴任手当、昼食及び通勤手当)及び賞与を給与の区分として支給している。

平成26年度の職員の給与は、管理職を除く職員の定例給与を+0.2%改訂(ベア)するとともに、5月及び11月の賞与は前年同期支給実績(職員給与の減額支給措置[※]勘案前)の105.8%(ベア対象外の管理職については106.4%)とした。この結果、年収ベースでは、1.5%の引上げとなった。

※ 東日本大震災からの復興に協力する趣旨から、平成24年度および25年度限りの臨時特例措置として、職員給与について減額支給(年収の減額率:管理1級△9.79%、企画役補佐△8.24%、その他の職員△5.94%)を行った。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成26年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	人 3,938	歳 43.3	千円 8,029	千円 6,149	千円 123	千円 1,880
指定職相当職員	人 43	歳 53.0	千円 19,212	千円 14,483	千円 109	千円 4,730
事務・技術	人 3,543	歳 42.5	千円 8,082	千円 6,186	千円 119	千円 1,896
研究職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
教育職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
その他職種	人 352	歳 49.7	千円 6,122	千円 4,756	千円 165	千円 1,366

在外職員	人 11	歳 39.6	千円 16,049	千円 13,730	千円 0	千円 2,319
指定職相当職員	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
事務・技術	人 11	歳 39.6	千円 16,049	千円 13,730	千円 0	千円 2,319

任期付職員	人 4	歳 56.5	千円 5,129	千円 3,951	千円 110	千円 1,178
事務・技術	人 4	歳 56.5	千円 5,129	千円 3,951	千円 110	千円 1,178
研究職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
教育職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
その他職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円

再任用職員	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
事務・技術	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
研究職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
教育職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
その他職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円

非常勤職員	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
事務・技術	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
研究職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
教育職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
その他職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円

注1:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2:常勤職員および在外職員のうち、指定職相当職員とは、局長・審議役級をいう(以下同じ)。

注3:常勤職員のうち、その他職種とは庶務職員等をいう。

注4:各項目で端数処理を行っているため、各項目の合計が、総額と一致しない場合がある。

<うち年俸制適用者>

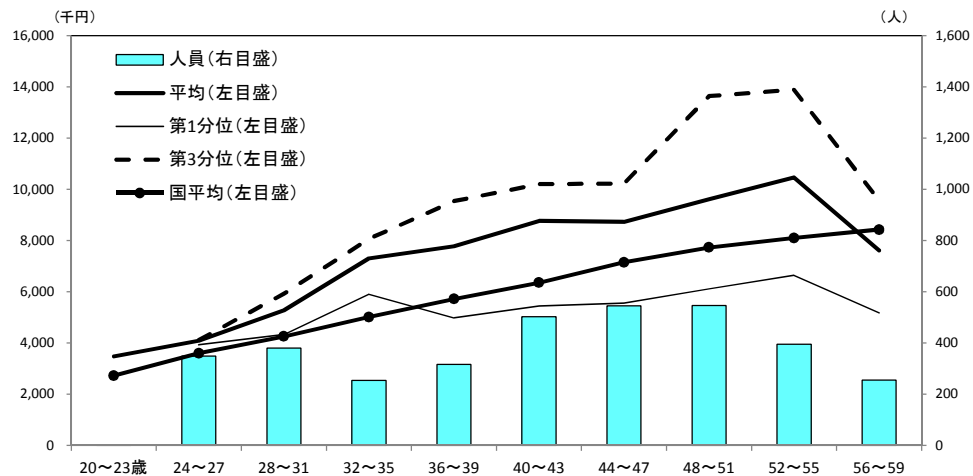
区分	人員	平均年齢	平成26年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち賞与	
					うち通勤手当	
常勤職員	人 685	歳 48.5	千円 14,908	千円 11,314	千円 112	千円 3,594
指定職相当職員	人 43	歳 53.0	千円 19,212	千円 14,483	千円 109	千円 4,730
事務・技術	人 642	歳 48.2	千円 14,619	千円 11,101	千円 112	千円 3,518
研究職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
教育職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
その他職種	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円

在外職員	人 6	歳 45.5	千円 19,961	千円 17,124	千円 0	千円 2,837
指定職相当職員	人 該当なし	歳	千円	千円	千円	千円
事務・技術	人 6	歳 45.5	千円 19,961	千円 17,124	千円 0	千円 2,837

注1:年俸適用者については、任期付職員、再任用職員および非常勤職員の該当者はいない。

注2:各項目で端数処理を行っているため、各項目の合計が、総額と一致しない場合がある。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員及び再任用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2:年俸適用者(除く指定職相当職員)および年俸制以外の任期付職員を含む。以下、④において同じ。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額	
			平均	最高～最低
代表的職位	人	歳	千円	千円
参事役級	66	50.0	17,648	19,047～14,260
企画役級	576	48.0	14,147	17,115～8,242
非管理職級	2,901	41.3	6,515	12,468～3,238

注:年俸適用者(除く指定職相当職員)を含む。

④ 賞与(平成26年度)における査定部分の比率(事務・技術職員)

区分		夏季(5月)	冬季(11月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
		49.8	100.0	75.2
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
		50.2	0.0	24.8
一般職員	最高～最低	%	%	%
		65.0～22.4	—	37.8～9.5
	一律支給分(期末相当)	%	%	%
		74.1	73.8	73.9
一般職員	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
		25.9	26.2	26.1
	最高～最低	%	%	%
		44.0～0.0	42.8～0.0	40.8～0.0

3 給与水準の妥当性の検証等

○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 124.8 ・年齢・地域勘案 118.9 ・年齢・学歴勘案 125.8 ・年齢・地域・学歴勘案 120.3
国に比べて給与水準が高くなっている理由	<p>日本銀行法第31条に基づき、日本銀行は、「職員給与の支給基準」を社会一般の情勢に適合したものとなるよう定め、これを財務大臣に届け出るとともに、公表している。</p> <p>「職員給与の支給基準」では、「適切な政策運営及び業務サービスの維持・向上を図るために必要な人材を確保する上で十分競争力のあるものとし、そうした人材の、主要民間金融機関のほか主要民間企業等における処遇の実情をも勘案」して、給与等を定めることとしている。</p> <p>日本銀行の給与水準が国家公務員の給与水準に比べて高くなっているのは、こうした主要民間金融機関、主要民間企業等の給与が国家公務員の給与水準に比べて高いことが背景となっていると考えられる。</p>
給与水準の妥当性の検証	<p>【支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 0%】 【累積欠損額 0円(平成26年度決算)】 【管理職の割合 18.1%(常勤職員数3,543名中642名)】 【大卒以上の高学歴者の割合 52.8%(常勤職員数3,543名中1,869名)】 【支出総額に占める給与・報酬等支給総額 21.0%】 (支出総額 189,003,498千円、給与・報酬等支給総額 39,686,621千円：平成26年度決算)</p> <p>【検証結果】 (法人の検証結果) 日本銀行法第31条に基づき、日本銀行は、「職員給与の支給基準」を社会一般の情勢に適合したものとなるよう定め、これを財務大臣に届け出るとともに、公表している。</p> <p>「職員給与の支給基準」では、「適切な政策運営及び業務サービスの維持・向上を図るために必要な人材を確保する上で十分競争力のあるものとし、そうした人材の、主要民間金融機関のほか主要民間企業等における処遇の実情をも勘案」して、給与等を定めることとしている。</p> <p>日本銀行の給与水準が国家公務員の給与水準に比べて高くなっているのは、こうした主要民間金融機関、主要民間企業等の給与が国家公務員の給与水準に比べて高いことが背景となっていると考えられる。因みに、日本銀行が参考としている主要民間金融機関、主要民間企業等のうち、平均給与額等を公表している先の平均年間給与は以下のとおりとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要民間金融機関・主要民間企業^{注1} 平均年齢41.2歳 平均年間給与額8,612千円(25年度) ・国家公務員(行政職(一))^{注2} 平均年齢 43.5歳 平均年間給与額6,618千円 ・日本銀行(事務・技術)^{注3} 平均年齢 42.5歳 平均年間給与額8,079千円 <p>注1 各社平成26年3月期またはその直近決算期有価証券報告書 注2 平成26年人事院勧告資料(行政職俸給表(一)モデル給与例) 注3 ①表(職種別支給状況)の常勤職員欄の3,543人及び任期付職員欄の4人の計3,547人ベース</p> <p>(主務大臣の検証結果) 日本銀行の役職員給与については、「特殊法人等・独立行政法人の給与水準の見直しについて(H24.12.7閣僚懇談会配付資料)」に基づく対応として、平成25年度に給与等比較対象先の初回の入替え・拡充が行われた。この取組は、平成26年度において、給与水準の適正化に一部寄与したと認められる。今後も、「職員給与の支給基準」の基本的な考え方に基づき毎年度の給与改訂を適切に行うとともに、比較対象先の点検等の措置を講じること等により、継続的に給与水準の見直しを図っていくことが重要であるとする。</p>
講ずる措置	<p>日本銀行では、日本銀行法第31条の規定に基づき策定・公表した「職員給与の支給基準」の基本的な考え方に従い、毎年度、職員給与等の改訂を行っている。</p> <p>具体的には、「日本銀行の適切な政策運営及び業務サービスの維持・向上を図るために必要な人材を確保する上で十分競争力のあるものとし、そうした人材の、主要民間金融機関のほか主要民間企業等における処遇の実情をも勘案すること」、「日本銀行の業務及び財産の公共性にかんがみ、その総額を含めて適正かつ効率的なものとなるよう配慮すること」等の考え方が示されており、これらを踏まえて毎年度の給与等を定めている。</p> <p>今後も、こうした考え方に基づき、引き続き、職員の給与等の改訂を適切に行っていく方針である。</p>

4 モデル給与

- 22歳(大卒初任給、独身)
月額200千円 年間給与2,752千円
- 35歳(本店企画役補佐、配偶者・子1人)
月額 567千円 年間給与9,264千円

(注)45歳は、年俸制対象者が過半であるため、モデル給与は記載しない。

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

「職員給与の支給基準」に基づき、職員の給与は、能力、職責及び勤務成績等に応じたものとしている。

- 定例給与
管理職は、業績に顕れた能力に基づき、年1回、年俸を査定。年俸の12分の1の額を定例給与としている。
非管理職は、年1回、業務遂行上必要な能力の伸長度合いの評価を行い、これに基づき支給している。

- 賞与(査定支給部分)
半期毎(管理職については通年)の勤務成績により支給する。

今後も、「職員給与の支給基準」に基づき、職員の給与は、能力、職責及び勤務成績等に応じたものとする。

III 総人件費について

区 分	平成26年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 39,686,621
退職手当支給額 (B)	千円 9,618,821
非常勤役職員等給与 (C)	千円 968,211
福利厚生費 (D)	千円 6,778,032
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 57,051,685

総人件費について参考となる事項

・対前年比状況

平成26年度においては、「給与、報酬等支給総額」が前年度比+7.2%、「最広義人件費」では同+6.0%となった。これは、①平成24年度及び平成25年度に、東日本大震災からの復興に協力する趣旨から給与の減額支給を行ったこと、②職員の給与を引き上げた(年収ベースで+1.5%)こと、が主要因となっている。

・役職員退職手当の引下げ (役員)

特別職国家公務員の退職手当の支給水準が引き下げられたこと等を勘案し、平成25年3月から引き下げを行った(経過措置として、25年9月まで△2%、25年10月から26年6月まで△8%、26年7月以降は△13%)。

(職員)

主要民間金融機関・主要民間企業等の動向を勘案して、平成27年4月1日から職員平均△12%程度引き下げることを選定した。

IV その他

特になし